

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Aユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年 2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎年、恒例となっている秋の1泊旅行、誰ひとりかけることなく、無事に今年度も行ってきました。毎年、入居者様もスタッフも体調を、気にしながらも、終える事ができました。ホームの一大イベントであり毎年継続しております。 毎月の外出レクは2回出かけています。天気の良い日は散歩にも出かけています。G入居者様のADL低下防止や楽しみのある生活が出来る様こころがけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今期の取組みとして、利用者の思いや意向を介護計画に反映させるために何が必要かを考えた。思い等把握したことを記録する方法を改善したり、支援時に重点的に行うことが誰でもわかるように「今月の重点ケアプラン活動」をスタートし、介護計画を意識した支援に取組んでいる。  
多くの利用者が長く居住しており、今後の対応の取組みとして「看取りについてのアンケート」を家族に行った。現在の家族の意思確認ができたことで、家族や医師との連携や職員教育を始めホームの進むべき道が見えてきた。  
毎年恒例の一泊旅行や日常の散歩等の外出は職員の「外出をもっと頑張りたい」という思いがあり、利用者が地域の一員として暮らしを楽しめるよう努力を惜しまないホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時の復唱を継続している、定着しているかは、スタッフの意識次第であるが、意識して勤務していると信じています。	ホーム独自の理念があり、申し送りで復唱をし理念共有に努めている。新しい職員には入職時に管理者より直接説明を行っている。	各職員もしくは事業所として現状に即した目標設定をし、理念実践に繋がる取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会長様により、毎月慰問に来て頂いている。今年の夏は、駐車場をラジオ体操の場所として使用して頂き、交流している	毎月慰問で町内会長のギター演奏があり、その際情報交換をしている。地域の祭りにお供えを持って行ったり、ホーム駐車場を夏休みのラジオ体操の場として提供している。	近所の保育園や大きな祭りがある神社など地域の資源を有効に活用されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	申し込みに、ご来所頂いた方には、少しでもお気持ちに近づける様、これからの事等、今の現状と一緒に考える様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人ずつ、ご意見をうかがっている、今後の取り組みに生かす様に取り組んでいます。	2ヶ月毎の運営推進会議には利用者や家族、自治会長や民生委員、調剤薬局、行政が参加している。勉強会や活動報告、意見交換を行なっている。意見に対してできる限り反映するよう努めている。	利用者の普段の様子を知る機会として運営推進会議時に食事をを行う予定である。行事との組み合わせ等で家族や地域住民など多くの参加につながる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている	運営推進会議に毎回地域包括支援センターの参加がある。また日頃から報告や相談をしたり、研修に参加する等協力関係を築いている。市には運営推進会議の議事録の提出を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加して、資料を配布して勉強会を開催したが、全てのスタッフが理解して勤務するには、時間と回数、意識的な事が必要であるため、今後の課題でもある	外部環境から安全面に配慮し玄関は終日施錠をしているが、現状の課題として意識をしている。職員は外部研修等勉強を重ね、利用者の思いに添う支援に取り組んでいる。	職員の言葉による拘束(スピーチロック)を課題として挙げている。場面や状況などを検証し、再発防止への取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、上記と同じく時間と意識が必要な段階である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ、成年後見制度の外部研修に出かけたが、実際スタッフの勉強会までに至っていない、機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で確答する方が見えない為意識が薄い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせていただいております、なかなか。お会いできない事もありますが、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。	年1回の家族会や家族のホーム訪問時に話し合い意見収集に努めている。また、日頃の様子や行事参加の誘いなどホーム便りや電話で伝えている。今期看取りについてのアンケートをし、家族の現状の要望を確認している。	利用者と家族の交流を定期的に行いたいと年2回の家族会を考えている。期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を、聴くように努めています。月1回ミーティング	月1回のミーティングや勉強会、リーダー会などで職員の意見を聞く機会を設けている。また年1回程度、管理者と個別面談を行なっている。	現状、事業所全体の会議がない。理念共有やチームケア強化の為に全体会議が開催される事が望ましい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して。発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人での、グループホーム管理者が集まる時間を設けている、現状の問題点等話し合っている。スタッフ同士が同業者戸の交流がないため、今後企画しようと検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気にならせております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という病気を、重視せず人としての付き合いが出来る様、又、スタッフと入居者様との関係で無くお互い、一番の理解者である関係を、築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思っ見える事は、こちらが察して、伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力により、実現できているところと実現できていないところがあるが、友達のみえて毎月食事会に出かける事を10年以上継続されて見える方が見え、ホームに入居されても継続している。	家族と一緒に懐かしい人と会ったり馴染みの場所へ出掛けている。ホームは外出時の家族の心配ごとへのフォローを行なっている。近所の神社への参拝や公園等の散歩等で近隣住民と顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された、ホーム利用者様に暑中お見舞いを郵送した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の買い物を、お小遣いから購入している。毎月ケアプランに基づき活動内容を考え、実施ご本人様に何でも検討して頂けるよう努めている	傾聴の姿勢に努め、会話や様子から思いを聞き取っている。今期、記録の書き方を工夫し、把握した思いや事柄を日々の支援に反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。常日頃のバイタルチェック等で観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の入居者様お一人ずつ、スタッフが毎月、目標を見直している。現状に即した介護計画の作成に努めている	介護計画は本人や家族の意向を確認し作成しており、定期的に見直しを行っている。さらに介護計画を意識した支援が行えるようにと職員が話し合い、取組みとして「重点ケアプラン活動」が始まった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが、記録場所のファイルがある場所を把握して、時間があれば見れるようにしている。申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報に応じて柔軟な対応で、いろんな視点から支援が行なえるよう今まで以上に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に住民の方々と行いたいとの気持ちはあるものの、実現されていません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒の文面をお渡ししている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医は自由選択である。家族対応であるがホームは適切な受診支援をしている。また24時間対応の協力医がおり、定期の往診と合わせ連携体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。日常の中でとらえた情報を訪問看護様に伝えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのアンケートを、出して、ご家族様のお気持ちを把握したものの、話し合いまで至っていませんが、折を見てお話しいただき、出来る限りのことを努めたいと思っている。	長くホームに居住する利用者が多く重度化や終末期は避けて通れない状況である。看取りについてのアンケート結果から家族の意向に沿うように勉強会等を行なっているが、職員教育等体制づくりは今後の課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受ける方向で勤めていきます。年内中に講習を開催する予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤をするスタッフ、夜間設定で避難訓練を一回り実施した。地域の方々には、運営推進会議を通じて、協力をお願いしている。地震などの想定訓練も企画するつもりでまだ、進んでいない	利用者が参加し戸外まで避難するなど、夜間想定を含めた年2回の避難訓練を行なっている。地域の高齢化もあり協力体制までは至っていない。	災害に備え事業所の設備点検や、食糧の備蓄の準備などの検討が求められる。地域の高齢化はあるが、協力体制を築く為の働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、心がけています。	苗字での声掛けを基本とし、本人や家族の希望があれば名前で呼ぶ事もある。「ちゃん」は一切使用しない。申し送りでは利用者を「色」で例えるなど、プライバシーへの配慮を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等御自分で選択して着て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。	週4回の食材の買い出しに利用者と一緒に出掛けている。個々の誕生日会では希望に沿ったメニューとケーキを提供している。レクリエーションでおやつを一緒に作って楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたてて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。定期的に時間を見て声掛けして失禁が無いように心がけている	日中は定時のトイレ誘導を行っている。チェックシートを活用し一人ひとりの排泄状況の把握に努めている。夜間はオムツを使用せずにパットやトイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のお茶やヨーグルトとの摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。牛乳やバナナ等毎朝食に変化を変えて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まってい、個々の希望にそっていないが、1日4名と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。	1日おきに4、5名入浴をしている。希望があれば毎日の入浴も可能である。無理強いせず歌を歌ったり会話をしたり、菖蒲湯やゆず湯で季節を感じたりと入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様に行きたいところを聞くこともある。	毎月2回、花見など自然と触れ合う外出レクレーションを行っている。日常的には午前の散歩があり、近隣住民と挨拶を交わしている。今期も恒例の一泊旅行を開催し、利用者や職員が参加し思い出を作った。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態の応じて検討している。年賀状を書いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。空気清浄機。温湿度計などを設置して室温に気を配っている。折り紙などを追って飾っている	壁面には大きく引き伸ばされた外出時の楽しい様子の写真がたくさん飾られており、利用者や家族、職員の笑顔と会話の種になっている。また、利用者の作品や季節の飾り付けが、居心地の良い空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー8名座れて、集まれて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いた頂いている	入所時に馴染みの物の持ち込みを依頼し、落ち着いて過ごせる配慮をしている。入り口には個々の笑顔の写真が飾られ温かみを感じられる。全居室に空気清浄機が設置され、感染症予防等衛生面の配慮がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。常に家事など行なう時はスタッフと一緒に声掛けに努め手伝ってもらっている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Bユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年 2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>月2回の外出レクや天気の良い日には近くの公園や真清田神社に散歩に出かけています。毎年恒例になっている秋の1泊旅行は今年はスタッフと入居者様1対1で実施することが出来ました。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前に理念を復唱して共有していると思うが実施していないので、繋げられるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で御近隣の方々に御逢いすれば、挨拶をする。程度である為、日常的の交流は難しい、毎月、町会長様が慰問に来て下さっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に働きかけは弱いですが、毎月、会長様に来所頂き、ホームを理解して頂き、地域に発信して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されて方々、お一人ずつご意見を頂き、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、事業所の実情や活動報告を伝え、取り組みに理解して頂いていると思う。運営推進会議に詳細は役所に提出している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ、研修に出かけているが、スタッフに勉強会開催していない、現状成年後見が必要と思われる入居者様が見られない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居者様に対して、ホームでの生活にするにあたり、疑問に思う事や不安に思うことを把握して、説明を心掛けて、安心して頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見やご要望が言ってもらえるような雰囲気作り、御面談時に伺うなどの努力につとめ、運営に反映できるように努めている。意見箱の設置		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談との形をとらず、常に話しやすい関係づくりに努め、休憩時や退勤時などに声掛けをして、意見やスタッフの思いに近づける様努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けています。社員・準社員は、自己評価を年に1回は行ない、提出してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加して頂くことにより、より一層、知識が深まり又、各外部研修に参加した方が講師としての勉強会を実視している。 【発表会】共通理解するよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人では第4金曜日にグループホームの施設長が集まり勉強会を開催している。管理者同士の集会であり、スタッフに反映できていない為今後、他のGHとの交流を計画する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努めているが、スタッフ全体で取り組めていない傾聴重視して信頼関係を構築するように、今後も務めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の御話をよく聞いて要望などを理解して関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要な支援なのか、スタッフに意見を伺いながら見極め、導入するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士との気持ちが、薄れてきている為、今一度、気づきなどにより、ケアの質の向上に努めたいと思っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と見て見える事は、こちらが察して、伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の行きたいところへ、個別に実現は出来ていないが、外出レクなどに取り入れるように努めて行きたいおともう。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。支え合っている雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前御縁があった、一部の入居者様のご家族に暑中お見舞いを郵送いたしました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から利用者様の想いをうけとり出来るだけご本人様本位に努めております。全スタッフが同じ思いで支援できるよう、努めて行きます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など、全スタッフが把握できておらず、スタッフ本位になってしまわないように、今後もカンファレンスなどを通じて把握していくよう努めて行きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアプランの見直しを、行なっている。前もってスタッフより今の問題点や意見などを提出してもらっている。本人・関係者の意見を反映できたプランは出来る様努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組まれていない、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に対する知識が乏しく、活用できていない。地域の神社や自然には親しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている、提供表を希望されるご家族には医師に提出したもの一緒の物をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的に話し合うことは、現状していないが、ご家族様・ご本人様が、望まれている生活をホームで送れるよう、意向などのアンケートを配布して把握しているが、スタッフには伝えていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、スタッフ全員に受けて頂くようにしている。年内中に講習を開催する予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤勤務のスタッフに全員に夜間設定で訓練して頂いた、身についたかは不明であるが、回を重ねて全職員が身につけて頂けるよう努めて行きます。地域の協力体制も考えていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。希望に応じて居室の施設もしている。言葉かえの対応のむずかしさを感じている、学習会を開きたい考えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。出来る限り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が、好きな服装が出来る様、自己選択に心掛けている。一人一人に合わせた身だしなみに心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った形態や食事量を配慮して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にバナナや牛乳を取り入れ等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。主治医と相談しながら、下剤にて調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴時間を設けている。入る時間は決まっているが1日4名位は入浴できるように心がけて、ゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局様に薬の管理を依頼して、薬が変わった時等、相談できる体制が整っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様にいきたいところを聞くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所にて管理している。自己にてお財布を所持してみえる入居者様一名みえるが、ほとんど、買い物する機会をもてていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自らされることなく、生活されて見える。手紙等の支援把取り組みたいと思う。実施されていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング・ソファ・長椅子等外を眺めれる場所等はある、思い思いの場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、うちでご使用させて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。		